

【ねらい】

わたしたちの「こころ」は目には見えませんが、さまざまな働きをしています。京都大学こころの未来研究センターはこころに関する学際的研究を推進しているユニークな研究組織です。研究分野は、神経科学、認知科学、文化・社会心理学、臨床心理学、仏教学、美学、公共政策学など、自然・人文・社会科学に広くまたがっています。この学科においては実験心理学的な基礎研究の知見から心理臨床の実践に至るまで、様々な角度から「こころ」のあり方に迫る講義を実施したいと考えています。そして受講者の皆様には未来社会における、こころのあり方や生き方についてのヴィジョンをとともに模索していただければと思います。

【様々な角度から「こころ」を知る】

	内 容	実 施 日	講 師
①	<b>脳とこころ：脳が存在する理由</b> わたしたちの「こころ」は何処に存在するのでしょうか？この問いに正確な答えを出すのは簡単ではありませんが、少なくとも「脳」が極めて重要な役割を果たしているのは間違いありません。わたしたちは脳のはたらきによって、遠い昔の記憶を思い出したり、外国語を話したり、相手の表情を読み取ることができます。では、脳はこころのはたらきを生み出すために存在する臓器なのでしょう？この講義では、脳が存在する理由という観点から、脳とこころの関係に迫ります。	5月25日(土) 14:00~15:30	京都大学 こころの未来研究センター 特定准教授 阿部 修 士
②	<b>社会とこころ：人のこころを潤す他者の存在</b> 社会が高度に発展した現代では、人間関係はますます複雑化しています。たとえば、身近にいる家族、友人関係だけではなく、インターネット上では見知らぬ他者同士で情報交換することも可能になっています。このような社会ではさまざまな文脈で他者からサポートを受けていることが考えられます。本講義では、いかに人のこころが他者を抱きかかっているのか、社会心理学の研究例を紹介し、解説致します。	6月1日(土) 14:00~15:30	京都大学 こころの未来研究センター 特定助教 柳澤 邦 昭
③	<b>文化とこころ：幸福や対人関係における文化差</b> 私たちのこころを考えると、文化や社会の影響を抜きにすることはできません。本講義ではこころの働きや諸要素の中でも特に幸福や対人関係に着目し、その文化差や社会的影響について説明します。その際には日米など異なる国を比較したデータや、日本の地域住民や会社の従業員を対象に行われた様々な研究をご紹介します。また、受講生自身のご経験などについても振り返っていただきます。	6月8日(土) 14:00~15:30	京都大学 こころの未来研究センター 准教授 内田 由紀子
④	<b>感情とこころ</b> 恐れや喜びといった感情は、人生を左右する重要な心のはたらきです。実験心理学は、感情がどのような現象であるかを科学的に調べてきました。そして脳科学は、感情を生み出す脳のメカニズムを明らかにしつつあります。今回の講義では、特に無意識の感情に着目します。感情が無意識で生じることを実証する心理学研究の知見と、すばやく無意識に感情を生み出す扁桃体を中心とした脳回路のお話をします。	6月15日(土) 14:00~15:30	京都大学 こころの未来研究センター 特定准教授 佐藤 弥
⑤	<b>健康とこころ：健康華麗でいるために今日からできること</b> 誰もがイキイキしながら健康的に歳を重ねたいと願っていると思います。「フレイル(虚弱)予防にイイ」「認知症予防になる」という様々な健康情報が飛び交っています。情報疲労を起こさないために、「老いること」と「こころ・からだ・くらし」の関係について説明していきます。特に、最近話題の「認知症」をテーマに「こころ・からだ・くらし」をふりかえるワークショップをおこない、華麗に歳を重ねる知恵をお伝えしていきます。 ※時間が有れば、その場でできる簡単なエクササイズをご紹介します。	6月22日(土) 14:00~15:30	京都大学 こころの未来研究センター 特定講師 清家 理
⑥	<b>認知とこころ：記憶と言語</b> 記憶・思い出とは何でしょうか？ 忘れた、覚えている、ということは日常よく経験することですが、なぜどのように記憶できているのでしょうか？ また、大人はたくさんの言葉を知っていて、苦労なく話すことができます。しかし、これは子どもの頃から時間をかけて言葉を覚えて学習した結果で、どうやって話せるようになったかは自明ではありません。記憶と言語の仕組みについて、認知心理学が明らかにしてきたことをお話します。	6月29日(土) 14:00~15:30	京都大学 こころの未来研究センター 特定助教 中山 真 孝

内 容

実 施 日

講 師

⑦	<b>身体とこころ：身体的な疾患が及ぼす影響</b> 近年、医療技術の革新や進歩等によって、様々な疾患に対する診断法や治療法が開発・研究され、臨床現場で用いられてきています。他方、顎関節疾患等では、身体的な治療を施しても、何となく体調が悪い等の不定愁訴を訴える患者も多く、精神等に及ぼす影響が問題となっています。本講義では、身体的な疾患が脳機能に及ぼす影響について、複数の事例をあげて紹介し、「こころ」への影響について考えていきます。	7月6日(土) 14:00~15:30	京都大学 こころの未来研究センター 特定講師 中井 隆 介
⑧	<b>子どものこころ：子どもの遊び・表現を通じて</b> 子どもの不登校や発達障害など、こころの面でも子どもが抱える問題は多様化してきていると思います。こうした子どもへの心理療法として行われるプレイセラピー(遊戯療法)について、セラピーの過程で起こる子どものこころの変化を、こころの発達とも関連させながら紹介したいと思っています。プレイセラピーでは、遊びを通して自分を表現する場を持つことで、意識していないこころの問題や可能性に子どもが気づき、回復・成長していくケースが多く見られます。本講義では、実際のセラピーの例なども含めてお話できればと思っています。	7月13日(土) 14:00~15:30	京都大学 こころの未来研究センター 特定研究員 粉川 尚 枝
⑨	<b>心理療法と現代のこころ1：現代におけるこころの非定型化</b> 社会が要求する規範や常識が揺らぎつつある昨今では、これまでの当たり前をはずれた多様な生き方が許されるようになってきました。しかしその一方で、自由であるがゆえの新たな課題も浮上してきています。本講義では、前半に現代社会を生きる上での難しさや課題について、こころの「非定型化」という視点から解説します。後半では実際に心理検査を体験していただき、次回(11月2日)の講義への足がかりとします。	7月20日(土) 14:00~15:30	京都大学 こころの未来研究センター 特定講師 畑中 千 紘
⑩	<b>現代社会における「こころ」と「倫理」</b> 今日の社会では、グローバル化した市場経済がわたしたちの生活の基本的な条件になっています。その結果、わたしたちは、効率性、利益主義、能力主義といった価値観に縛られ、さらに経済成長至上主義に陥っています。ですが、それで「こころ」が満たされているかといえば、そうとはいえません。この講義では、経済を中心にして、どうしてそうなったのか、また、日本人の「こころ」はそれを受け止めることができるのか、といったことを考えたいと思います。	7月27日(土) 14:00~15:30	京都大学 こころの未来研究センター 特任教授 佐伯 啓 思
【現在のこころのあり方を読み解く】			
	内 容	実 施 日	講 師
⑪	<b>視覚とこころ</b> 私たちは情報の多くを視覚から得ています。しかし、視覚は外界の情報をカメラのように私たちのこころに投影しているわけではありません。曖昧なものや妥当的な解釈に反するものは、もっともらしい意味に自動的に解釈されて認識されています。この講義では視覚の処理メカニズムの基礎を学ぶとともに、様々な錯視を見ながら、私たちのこころが外界の情報をどのように解釈する「癖」を持っているのかを理解することを目的とします。	9月7日(土) 14:00~15:30	京都大学 こころの未来研究センター 特定講師 上田 祥 行
⑫	<b>脳とこころ：意思決定を担う脳</b> おやつを食べないかと決めていたのに、ついケーキを口にしてしまった…こうした経験は誰しも心当たりがあるでしょう。日々の生活の中で、わたしたちは理性と感情のはざまに様々な意思決定を迫られます。この講義では、最新の脳科学の成果をもとに、意思決定の基本的なメカニズムを解説します。特に、意思決定には数多くの脳が存在するため、合理的で柔軟な意思決定を行うことが想像以上に困難であることを、具体例を交えながら紹介します。	9月14日(土) 14:00~15:30	京都大学 こころの未来研究センター 特定准教授 阿部 修 士
⑬	<b>社会とこころ：人のこころを蝕む他者の影響</b> わたしたちは人間関係の中で生活しています。身近にいる家族、友人関係、職場の同僚など、その形態も多様です。人間関係には、人との助け合いなど、多くの光の部分がある一方で、その影もまた多くあります。いじめ問題や家庭内暴力など、さまざまな問題が挙げられるでしょう。本講義では、他者、集団、社会のなかで、なぜ人のこころは傷つきやすいのか、社会心理学の研究例を紹介し、解説致します。	9月21日(土) 14:00~15:30	京都大学 こころの未来研究センター 特定助教 柳澤 邦 昭
⑭	<b>生体とこころ：運動やトレーニングが及ぼす影響</b> 運動やトレーニングは、生活習慣病の予防や、筋力や運動機能の維持のために重要であり、健康的な生活を送るためにも実施が推奨されています。また、日本の高齢者の約6人に1人は認知症であると言われていますが、この運動やトレーニングによって、認知症の予防に効果があるという研究は多く存在します。本講義では、運動やトレーニングが脳機能に及ぼす影響について紹介し、その有用性について解説します。	9月28日(土) 14:00~15:30	京都大学 こころの未来研究センター 特定講師 中井 隆 介

	内 容	実 施 日	講 師
⑮	<b>認知とこころ：認知システムを作る</b> 人間の脳の認知過程を研究する上で、どうすれば理解したと言えるのでしょうか？その答えの一つが実際に脳の認知過程のモデルを作ってみて、本当に人間らしく動くか検証することです。認知科学の研究者が実際に作ってきた数々のモデルを紹介しながら、認知過程の理解を深めます。このモデル作りから出てきた「人工知能」・「ディープラーニング」についてもお話しし、人間のこころと機械のこころとは何かについても考えたいと思います。	10月5日(土) 14:00~15:30	京都大学 こころの未来研究センター 特定助教 中山 真 孝
⑯	<b>環境とモノの見方とこころ</b> 視覚は私たちが外界を理解する大事な要素です。これまで、基本的な視覚やこれにかかわる注意の機能は基本的にユニバーサルであり、環境や文化といった後天的な要素の影響を受けて変化することはないと考えられていました。しかし、近年では視覚の情報処理や注意の機能が後天的な影響を受けている可能性が指摘されています。この講義では、環境や文化によってモノの見方がどのように異なるのかを学び、これによって考えられる視覚の処理メカニズムの変容について議論します。	10月12日(土) 14:00~15:30	京都大学 こころの未来研究センター 特定講師 上 田 祥 行
⑰	<b>作者のこころと作品のこころ：美術作品をどのように見るか？</b> 美術作品は人間が制作するものですが、必ずしも作った人の思いがそのまま表現されるわけではありません。また、特に現代の美術作品には、一体作者は何を考えてこんなものを作ったのだろう？と疑問に感じるようなものも少なくありません。この講義では、人間である作者の「こころ」と、作者の思惑を離れて作品に宿る「こころ」の違い、作品の「こころ」がどのようにして作者の「こころ」から離れていくのか、といったことについてお話ししたいと考えています。	10月19日(土) 14:00~15:30	京都大学 こころの未来研究センター 特定教授 吉 岡 洋
⑱	<b>ブータンのこころ</b> 2011年の国王ご訪日により、ブータンという国は多くの国民の知るところとなりました。ブータンはしばしば「幸せの国」と呼ばれますが、実際、国策の中心には、「国民総幸福(GNH)」政策が据えられています。そして、同国の幸福観や幸福政策の根底には、同国の伝統的精神性(特にブータン仏教)が存在していることを忘れてはなりません。本講義では、ブータンのこころ(精神性)に焦点をあて、ブータンの社会、文化、幸福観そして幸福政策について概観します。	10月26日(土) 14:00~15:30	京都大学 こころの未来研究センター 特定准教授 熊 谷 誠 慈
⑲	<b>心理療法と現代のこころ2：こころはなぜネガティブに働くのか？</b> 7月20日の1回目の講義で行った心理検査の全体の結果についてフィードバックし、現代のこころの特徴と課題について実際のデータに基づいて解説します。そして、不安や怒り、症状など、こころに生じるネガティブな動きはなぜ、どのように生じるのかについて心理療法との関連から考えてみたいと思います。	11月2日(土) 14:00~15:30	京都大学 こころの未来研究センター 特定講師 畑 中 千 紘
⑳	<b>こころの古層・現代のこころ</b> 心理療法の経験からは、物に魂があったり、あの世と通じていたりする前近代の心性が、こころの古層として今も残っていることがわかります。同時に現代のこころは、近代自我のようなものからさらに急激に変化してきています。こころの古層がどのように現代に息づいているのか、また現代のこころはどのように変化してきているのかを、実際の心理療法の経験に基づき、さらに村上春樹の作品を読み解くことから解説したいと思います。	11月9日(土) 14:00~15:30	京都大学 こころの未来研究センター センター長、教授 河 合 俊 雄

#### 講師プロフィール

- 阿部 修 士 (あべ のぶひと) 京都大学 こころの未来研究センター特定准教授  
(専 門) 認知神経科学  
(著 書) 『意思決定の心理学 脳とこころの傾向と対策』(講談社、2017年)
- 柳 澤 邦 昭 (やなぎざわ くにあき) 京都大学 こころの未来研究センター特定助教  
(専 門) 社会心理学、社会神経科学  
(著 書) 『社会神経科学』(北村英哉・内田由紀子(編)『社会心理学概論』ナカニシヤ出版、2016年、365-385)

- 内 田 由紀子 (うちだ ゆきこ) 京都大学 こころの未来研究センター准教授  
(専 門) 社会心理学、文化心理学  
(著 書) 内田由紀子・竹村幸祐『農をつなぐ仕事：～普及指導員とコミュニティへの社会心理学的アプローチ～』(創森社、2012年)  
河合俊雄・内田由紀子『ひきこもり考』(創元社、2013年)  
北村英哉・内田由紀子(編著)『社会心理学概論』(ナカニシヤ出版、2016年)
- 佐 藤 弥 (さとう わたる) 京都大学 こころの未来研究センター特定准教授  
(専 門) 実験心理学、認知神経科学  
(著 書) 村上郁也編『イラストレクチャー 認知神経科学：心理学と脳科学が解くこころの仕組み』(オーム社、2010年分担執筆) など
- 清 家 理 (せいけ あや) 京都大学 こころの未来研究センター特定講師  
(上廣倫理財団寄付研究部門)  
(専 門) 社会医学、老年学、医療福祉学  
(著 書) 『医療ソーシャルワーカーの七転び八起きミッション』(メジカルビュー社、2015年)  
鳥羽研二(監修)、櫻井孝、清家理(編著)『「認知症介護教室」企画・運営ガイドブック』(中央法規、2018年)  
「IX章：家族介護者の支援」(鳥羽研二 他監修・編集『認知症トータルケア』日本医師会、2018年)
- 中 山 真 孝 (なかやま まさたか) 京都大学 こころの未来研究センター特定助教  
(専 門) 認知科学、文化心理学  
(著 書) Nakayama, M., Ueda, Y., Taylor, P. M., Tominaga, H., Uchida, Y. (2017) Cultural psychology as a form of memory research. In T. Tsukiura & S. Umeda (Eds.), Memory in a Social Context: Brain, Mind, and Society. pp. 281-295. Springer Japan
- 中 井 隆 介 (なかい りゅうすけ) 京都大学 こころの未来研究センター特定講師  
(専 門) 生体医工学、生体情報工学  
(論 文) 多次元MRIを用いた顎機能診断への期待、歯界展望、2011 117;5:795-816.  
撮像法と画像解析法がもたらす情報 -骨格筋画像解析によるトレーニング装具と再生医療の評価-、INNERVISION、2012 27 (3): 30-3
- 粉 川 尚 枝 (こなかわ ひさえ) 京都大学 こころの未来研究センター特定研究員  
(専 門) 臨床心理学  
(論 文) Konakawa, H. (2016) Attempt at Comparison of Japanese and Western Dreams Using Structural Dream Analysis. Archives of Sandplay Therapy, 29 (1), 83-115.
- 畑 中 千 紘 (はたなか ちひろ) 京都大学 こころの未来研究センター特定講師  
(上廣倫理財団寄付研究部門)  
(専 門) 臨床心理学  
(著 書) 畑中千紘『話の聴き方からみた軽度発達障害』(創元社、2011年)  
河合俊雄・田中康裕編『発達の非定型化と心理療法』(創元社、2016年共著)
- 佐 伯 啓 思 (さえき けいし) 京都大学 こころの未来研究センター特任教授  
(専 門) 社会思想  
(著 書) 『西田幾多郎』(新潮新書、2014年)  
『日本の愛国心』(中公文庫、2015年)  
『経済成長主義への訣別』(新潮社、2017年)

■上田 祥行 (うへだ よしゆき) 京都大学 こころの未来研究センター特定講師  
 (専門) 視覚科学、認知科学  
 (著書) 『全体としてこちらのほうがよい—アンサンブル知覚—』(三浦佳世・河原純一郎(編)『美と魅力の心理学』ミネルバ書房、印刷中)  
 Nakayama, M., Ueda, Y., Taylor, P. M., Tominaga, H., & Uchida, Y. (2017). Cultural psychology as a form of memory research. In T. Tsukiura & S. Umeda (Eds), Memory in a Social Context: Brain, Mind, and Society. pp. 281-295. Springer Japan.

■吉岡 洋 (よしおか ひろし) 京都大学 こころの未来研究センター特定教授  
 (専門) 美学芸術学  
 (著書) 『情報の宇宙と変容する表現』(京都造形芸術大学、2000年共著)  
 『文学・芸術は何のためにあるのか?』(東信堂、2009年編著)

■熊谷 誠 慈 (くまがい せいじ) 京都大学 こころの未来研究センター特定准教授  
 (上廣倫理財団寄付研究部門長)  
 (専門) 仏教学、チベット学、ブータン学  
 (著書) The Two Truths in Bon (Kathmandu : Vajra Publications, 2011)  
 Bhutanese Buddhism and Its Culture (編著, Kathmandu : Vajra Publications, 2014)  
 『ブータン：国民の幸せをめざす王国』(創元社、2017年)  
 Buddhism, Culture and Society in Bhutan (編著, Kathmandu : Vajra Publications, 2018)

■河合 俊雄 (かわい としお) 京都大学 こころの未来研究センター センター長、教授  
 (専門) 臨床心理学  
 (著書) 河合俊雄・田中康裕・竹中菜苗・畑中千紘『発達障害への心理療法的アプローチ』(創元社、2010年)  
 『村上春樹の「物語」』(新潮社、2011年)  
 『ユング派心理療法』(ミネルヴァ書房、2013年)  
 『ユング』(岩波現代文庫、2015年)  
 河合俊雄・田中康裕編『発達の非定型化と心理療法』(創元社、2016年)  
 『河合隼雄スペシャル(100分de名著)』(NHK出版、2018年)

26期生  
1年次

エネルギー変換工学科  
持続可能な社会発展のために—基礎論—

【ねらい】

今般の地球温暖化などの環境問題および化石系資源の枯渇の視点から、これからのエネルギー問題を取り上げ、現在使用されているエネルギー変換機器、エネルギー貯蔵機器に関する基礎的な事項を紹介し、またこれからの再生可能エネルギー、燃料電池、将来の二次電池の概要、さらに持続可能な社会発展のための全体最適化の観点からのエネルギー変換機器の最適化についても言及します。講師団は同志社大学理工学部の電気系、機械系、化学系、環境系の8名の教授です。

【昨今の環境／エネルギー問題】

	内 容	実施日	講 師
①	<b>これまでのエネルギー社会と環境</b> これまでの地下資源＝化石系資源に依存した現代社会におけるエネルギー問題、環境問題、資源の持続性などについて概説します。石炭、石油、天然ガスを燃焼させて仕事／動力／電力／熱を発生させて炭酸ガス(CO <sub>2</sub> )による環境問題を招きましたが、これからの環境保全をどう考えるかの問題提起をしたいと思います。	5月25日(土) 14:00～15:30	同志社大学 理工学部 教授 千 田 二 郎
②	<b>Life Cycle Assessmentと再生可能エネルギーの特質</b> 現在我々が使用している各種の工業製品の資源採掘、輸送、部品加工、組み立て、使用、廃棄・リサイクルにわたるエネルギー投入量とCO <sub>2</sub> 発生量を算定する手法であるLife Cycle Assessmentについて紹介します。また、再生可能エネルギーの特質についてのまとめを行います。	6月1日(土) 14:00～15:30	

【熱機関と流体機械】

	内 容	実施日	講 師
③	<b>熱機関の分類と特質</b> 産業革命以来利用されてきた4つの熱機関すなわち、蒸気機関、内燃機関、ガスタービンおよび蒸気タービンを作動流体と仕事の取り出しの方式から分類し、その特質と利用形態に関して紹介します。また、昨今の火力発電所(蒸気タービン)の高効率化のための各種コンバインドサイクルや原子力発電の原理についても説明します。	6月8日(土) 14:00～15:30	同志社大学 理工学部 教授 松 村 恵 理 子
④	<b>自動車／車両用エンジンの高効率化と低公害化</b> これまで多用されてきた移動体(車両／自動車)における内燃機関(ガソリンエンジンとディーゼルエンジン)の作動形式と特質をまず紹介します。あわせて、昨今のエンジン燃焼技術の進化—高効率化と低公害化の最新技術内容の概要を説明します。さらに今後のエンジンの方向性／ハイブリッド車との連携についても簡単に触れます。	6月15日(土) 14:00～15:30	
⑤	<b>流体エネルギーの利用エネルギー変換システム</b> 流体エネルギーを利用した各種の流体機械の作動原理および特質について紹介します。タービン／羽根車の詳細と回転式動力取り出しの特徴、また圧縮機やポンプの作動原理について簡単な説明を行います。	6月22日(土) 14:00～15:30	同志社大学 理工学部 教授 平 田 勝 哉

【ホロニックエネルギーパス(部分最適化から全体最適化)】

	内 容	実施日	講 師
⑥	<b>都市部エネルギーグリッドとトランスポーテーション</b> これまでの家電製品や自動車などの工業製品の開発／製造においては、それぞれ個々に高性能化や製造時エネルギー投入量の低減が行われてきました。これからは、これらのすべての工業製品を社会、都市生活のなかで全体としての調和性を勘案して配置し、エネルギー使用過程も中央集中型(ハードパス)と局所・個別・小型(ソフトパス)との連携が必要です。これをホロニックエネルギーパスと称します。この観点から、都市部のエネルギーと交通体系のあるべき概念を紹介します。	6月29日(土) 14:00～15:30	同志社大学 理工学部 教授 千 田 二 郎